

東
山
会 会

東 山 会 関 西 支 部 便 り

平成17年(2005年)度

東
山
会 会



平成16年度支部総会写真

名古屋大学工学部機械工学科同窓会

東山会関西支部

目 次

	頁
1 . 巻頭ご挨拶	1
支部長 清水 義一 (昭和31年卒)	
2 . 大学の近況について	2
名古屋大学大学院工学研究科機械理工学専攻 教授 社本 英二 (昭和59年卒)	
3 . 会員訪問	3
教頭先生訪問記 - 香川県立坂出商業高校 楠原正久氏 (昭和52年卒) を訪問 - 副支部長 青山 信英 (昭和32年卒)	
4 . 会員寄稿	
(1) 台湾について 日本デルファイ オートモーティブ システムズ (株) 市川 徹 (昭和43年卒)	6
(2) 新緑とシルバーの美 楠原 正久 (昭和52年卒)	9
(3) 出向先での巡り合い 放射線医学総合研究所 藤田 敬 (昭和58年卒)	11
5 . 同好会報告	
(1) 囲碁同好会 囲碁担当幹事 古澤 裕 (昭和32年卒)	13
(2) ゴルフ同好会 ゴルフ担当幹事 野崎 利雄 (昭和29年卒)	14
6 . 平成16年度支部総会報告	
企画担当幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)	15
7 . 平成16年度東山会関西支部会計並びに監査報告	18
会計幹事 山田 晃 (昭和33年卒) 会計監査担当幹事 野崎 利雄 (昭和29年卒)	
8 . 編集後記	19
9 . 平成17年度 東山会関西支部役員名簿	20

1. 巻頭ご挨拶

支部長 清水 義一（昭和31年卒）



5月11日（水）愛知万博に行きましたが、結局是非見たいと思っていたパビリオンは駄目で唯一予約出来たグローバル・ハウスのマンモスラボの見学のみで諦めざるを得なかったのは甚だ残念でした。しかし森林体感ゾーンもありエコロヂーの一端を勉強させてもらいました。テレビでトヨタグループ館のトランペットを吹く二足歩行ロボットの紹介をしていましたが、最近福祉介護ロボットとかロボカップ世界大会とかロボットを進化させる気運が高まっているのを感じます。進化の過程から考えて人類の生き残りは限りがあってもロボットならば可能性があるのではと思う最近です。

昨年、名古屋大学も法人化し全学同窓会活動も本格化されてきました。その一環ではありますが昨年11月17日（水）関西支部設立総会が開催されました。これに先立ち法学部同窓会、キタン会（経済）、応化会（工・応用化学）、二葉会（工・電気）、共晶会（工・金属）、鏡ヶ池会（工・土木）、農学部同窓会、東山会の各関西支部関係者が集まり協力していくことを申し合わせました。要請もあり青山幹事と私が幹事として参加しております。第42回東山会関西支部総会より11日遅れでしたがわざわざ都合をつけて両方に参加頂いた方々に改めて感謝申し上げます。次回全学同窓会関西支部総会は来年2月に予定されていますので宜しく願い申し上げます。

東山会も昨年より水野新会長のもと運営改善に種々努力されております。我々関西支部も運営改善にインターネットとかメール活用で少しでも経費節減に繋がればと考えております。是非ご理解とご協力をお願いします。今回新しく発足しました全学同窓会関西支部との関係からキタン会、応化会、二葉会等横の連携も可能になりますのでおおいに活用していきたいと思っております。ここで一つ課題があります。最近若い関西在住の会員が掴めなくなっていることです。なんらかの方法で連絡をとり相互のコミュニケーションが諮られればと考えております。宜しくご協力をお願いします。

2 . 大学の近況について

名古屋大学大学院工学研究科
機械理工学専攻 教授 社本 英二
(昭和59年卒)



平成16年4月の独立法人化に合わせて、名古屋大学でも多くの組織改革が行われました。まず、工学研究科では、高度で幅広い専門性に裏付けられた創造性と総合性を涵養する教育を目指し、「大専攻・大講座制」へ移行して教育・研究組織の再編成、新カリキュラムの策定などを行いました。この中で機械系の専攻では、これまでの機械工学専攻、機械情報システム工学専攻、電子機械工学専攻を統合し、機械理工学専攻と呼ぶ一つの大専攻になりました。この大専攻には機械科学分野、機械情報システム工学分野、電子機械工学分野が属し、それぞれの分野が2つの大講座から構成されています。この中で本同窓会の母体となるのは、機械科学分野、機械情報システム工学分野であり、前者は「先端材料・創製工学講座」と「環境・エネルギー工学講座」、後者は「生体力学・人間機械工学講座」と「マイクロ・ナノ機械システム講座」から構成されています。この大専攻では、同じく本同窓会の母体となる研究グループを含むマイクロ・ナノシステム工学専攻および計算理工学専攻と連携して、新たな知の創造を目指しています。なお、マイクロ・ナノシステム工学専攻は、従来のマイクロシステム工学専攻が時代の要請に合わせて名称変更したものです。

これまで、名古屋大学には多くの研究センターや研究施設が点在していましたが、地球環境負荷を低減した環境調和型の理想社会（エコトピア）を目指し、各種研究センターや研究施設、具体的には、理工科学総合研究センター、難処理人工物研究センター、高効率エネルギー変換研究センター、環境量子リサイクル研究センター、情報メディア教育センター等を整備・統合して平成16年4月からエコトピア科学研究機構が設置されました。機械系専攻からも複数の教員が兼務し、学生を含めて異分野の研究者とともに学際的研究を推進しています。

開かれた大学として地域社会との連携を推進することを目的に、名古屋大学社会連携推進室が平成14年5月に設置されていますが、平成15年10月には産学官連携の源泉として重要な知的財産の創出から活用までの新しい仕組みとして知的財産部が設置され、特許を初めとする知的財産を基に産学協同研究を活性化する方向がますます強められています。

一方、キャンパスについても、新校舎の建設に併せて老朽化した旧校舎の改修、改築が進み、大きく変化しています。機械系に関連しては平成14年度に2号館の改修が終了していますが、その隣の旧1号館跡にIB電子情報館西棟および南棟が完成し、来年には3号館の改修が始まる予定です。また、昨年キャンパス内に地下鉄名城線名古屋大学駅ができ、さらに平成16年10月には名古屋大学～新瑞橋間が開通して地下鉄環状線となって交通の便が良くなっています。

上記のように、激しい変革の時代を迎え、同窓生の皆様方にもいろいろな面でご協力を頂く機会が増えるものと思われまます。今後とも、一層のご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます。

3. 会員訪問

教頭先生訪問記

—香川県立坂出商業高校 楠原 正久氏（昭和52年卒）を訪問—
副支部長 青山 信英（昭和32年卒）



高松全日空ホテルクレメントにて（左が楠原氏）

支部便り恒例の“同窓生訪問記”取材のため、香川県立坂出高等学校教頭 楠原正久氏（昭和52年卒）の待ちかまえる高松全日空ホテルクレメントを訪れたのは、8月1日の暑い午後の昼下りでありました。

4月の支部幹事会で氏を訪問すること、及びインタビューに小生があたることに極めて当然の如くに認められたのは、氏と小生との間に少なからざる奇縁が存在していたのだと思わざるを得ません。

まず、氏への訪問は支部便り担当の和田幹事が、支部同窓会誌「ひがしやま」（*注参照）創刊号に機械科出身にしては稀有の、高校教員としての一文から発案されたのですが、その伏線としてかつて「ひがしやま」編集幹事担当であった小生が、所蔵の同誌を和田幹事へ譲っていたのを、慧眼な和田ジャーナリストにインスピレーションを与えたという経緯があります。

次は多才な氏は、短歌創作をたしなみ、採用率四百分の一といわれる朝日歌壇に、すでに50首も採用されており、雅名がなんとずばり青山詩帆！！、極めつけは氏の歌才に敬意を表して、6年前、当支部荻原幹事にそそのかされて同人となった「雪溪文学」編集の第38号に、処女作として発表した「短歌愚考」を氏に恵贈したら、文中、小生の義姉の短歌を叔父・姪の間答形式で評したスタイルを、氏はすかさず自家薬籠中のものとされ、小生の駄文作成の労を大い

に省いていただいたのです。芸は身を助く？

まずは氏の洒脱な、そして緻密な文章に諸氏よ、しばしの時を貸したまえ。

真理と叔父との真夏の真昼の対話（叔父；楠原正久氏、真理；姪）

「今日はお盆休みで皆集まったが、真理ちゃんも良く来てくれたね。」

「お爺ちゃんが亡くなって、3年目なので今日はお坊さんが来られてお経を読むのかと思っていたら、叔父ちゃんがお坊さん役でお経まで読むのには驚いちゃったわ。」

「そうかい、だけど叔父ちゃんのお経なかなかのものだっただろう。」

「そうね、本物のお坊さんかと思ったわ。叔父ちゃん何故お経の勉強などしたの？叔父ちゃんは確か大学の機械科を出て数学の先生をしているのでしょうか。私さっぱり訳が分からないわ。だいたい叔父ちゃんはどうしてエンジニアにならずに先生になったの？」

「叔父ちゃんはね、機械を勉強したんだけど、機械より人間を扱う仕事がしたくてね。同級生とは、随分違う道を30年あまり歩いて来たんだよ。だけど、先生になった2、3年目にね。どうも考えたのと違ってね。やめようと思った時期もあるんだよ。

大学の医学部を受け直そうと思った時期にね。ちょうど交際していた、叔母ちゃんにね、そう言ったらね、あんたが、やめても私が働いて食べさせてあげる。と言ってね。叔父ちゃん涙がでるくらいうれしかったね。叔母ちゃんはずいぶん美人だしね。そして叔父ちゃんには、優しいんだよ。結局、先生と受験勉強の両立は無理でね。叔母ちゃんも今でも音楽の先生をして、しんどいめをさせているんだよ。叔父ちゃんは叔母ちゃんを本当に愛しているよ。」

「そうだったの、ところで叔父ちゃん、教頭先生になって、4年目だけれど、先生と仕事はどう違うの。」

「授業が少し少ないんだけどね。色々と会議や雑用が多くてね、結構大変なんだよ。ただね、叔父ちゃんは校長先生にも、先生方にも気持ち良くお仕事いただくのが、仕事なんだよ。だって、そうすれば結局みんな生徒を大切にしてくれるだろう。」

「ところで、叔父ちゃん最近嬉しかったことは、何かある？」

「ふたつあるね。ひとつは、最近全校生徒の前で30分ほど校長先生に代わってお話をしたんだよ。その時ね、「いのちの大切さ」についてね。金子みすずさんの詩や、好きな歌人の上田三四二先生の短歌などを入れてね。最後は学生歌を壇上で大声で歌ったんだよ。するとね、生徒達が教頭先生の歌は上手かったと声をかけてくれるしね。人権・同和教育の主任さんは、途中から正座して聞きましたと言ってくれるしね。母校出身の先生も、教頭が、他校出身なのに、歌を一生懸命歌ってくれて、涙が出そうだったと言ってくれるしね。」

多くの先生方や生徒が声をかけてくれたよ。これはね、叔父ちゃんが大学の同窓生とは違った人生を歩んだお陰かも知れないよ。だって、いつも自分の人生はこれで良かったのかと考え続けて来たからね。それで仏教も本格的に通信教育で勉強したんだよ。

それからね、ふたつめはね。最近、大学の大先輩とお会いでき約 7 時間もお話ができたことだよ。叔父ちゃんはずっとね、同級生からも離れて寂しかったんだよ。先輩は、数学の対数を使った防音技術の話やね、宗教、文学のお話をして下さってね。叔父ちゃんは、本当に感激したね。そしてね、なによりもね、先輩の発する気力をいただいたことが、有難かったね。今日のニュースでは、先輩の住む豊中市では、38.4度まで気温が上がったそうでね。先輩とお元気でまた是非ともお会いしたいと思っているんだよ。

ところで真理ちゃん。彼氏は出来たかい。さて、もう少しビールを飲んで叔父ちゃんに話しを聞かせてくれないか。」

「だめ、叔父ちゃんには内緒、絶対に話さない。」

【蛇足】

氏の高校教員暦 高松南高校を皮切りに、坂出、高松東、高松西(最長 12 年) 母校 高松、琴平 1 年を経て教頭に昇進、小豆島土庄高へ赴任、現在、教頭暦 4 年目、教員暦 25 年。

特に東大、京大を目指す秀才の蝟集する母校高松高校での 6 年間の数学指導は特筆ものであります。

大学を出て間もなく習い覚えたダンスを武器に(これは小生の邪推であります)ピアノに堪能な才媛を伴侶とした氏は、高松高で高校数学の蘊奥を極め余裕綽綽、教頭昇進を控えながらも、慌てず騒がず中央仏教学院通信教育学部専修課程〔浄土真宗本願寺派(西本願寺)住職養成コース〕を三年間の学習を経て 02 年卒業という精進振り。

歌人としても一流の域に達している氏からは、一般企業人からは得られぬ静かなる覇気が感じられ、それが氏の尋常ならざる前途を私に予感させるのです。

氏は、同級白髪氏と同一の巨大企業入社を、恩師故古屋教授の諭しを振り切ってまで我が道を進んだのですが、泉下で恩師に合わせる顔が着々と出来つつあるのが実感と言えるでしょう。

図圖の身をかちながら出所間近かの、昭和 40 年卒戸塚宏君(戸塚ヨットスクール代表)と違った意味での我らが名大機械科の生んだ異色の人材、楠原正久氏。

好漢の前途に幸あれ!

(* 注) 現在の「東山会関西支部便り」の前の会報名、昭和 60 年創刊

4. 会員寄稿

(1) 台湾について

日本デルファイ オートモーティブ システムズ (株)

市川 徹 (昭和43年卒)



昭和43年3月 卒業いたしました市川でございます。恩師、先輩諸兄はじめ 同期、後輩の方々へのご無沙汰をお許しください。松下電器に入社、主に 冷凍空調分野で 特にカーエアコンの設計、品質管理に従事、2005年5月末 定年退職いたしました。この6年間は 台湾松下電器に出向していましたので その時に感じたことを中心に 台湾の紹介を兼ねて 書いてみましたので ご一読いただければ幸いです。おぼろげな記憶で書きましたので、数値に誤りがありましたらお許しください。マクロ感覚では 間違っていないつもりです。

1. 台湾の概要

1) 九州ほどの大きさ、人口2200万人、その70%以上の人々が 対岸 福建省から明、清の時代に移ってきた人々の国です。かつては 砂糖、バナナ、自転車、かさ といったものが 身近な台湾製品でしたが、今や ノートパソコン (世界シェア80%以上)、デジカメ、携帯電話 等のハイテク生産立国となっています。

戦後一度だけ (2000年) マイナス成長がありましたが、それ以外は 3%以上の成長を続けている、アジアで唯一の国であります。

2) 日本の50年間の統治時代 (児玉源太郎、後藤新平、八田与一が台湾で有名な日本人)、下水道整備によるマラリア等疫病の撲滅、アヘン等の麻薬の廃絶、ダム、用水路 等の整備による農業振興と 社会インフラ整備により現在の台湾があると、ほとんどの台湾人が感じており、世界でもっとも親日的な国であります。中国、韓国とは 全く状況が違う背景がここにあります。

3) 観光スポットは 故宮博物館、台北101、新幹線、タロコ渓谷 (花蓮) です。

故宮博物館は 戦後 蒋介石が 大陸から運んだ 中国王朝 5000年のコレクションを展示しています。北京のを遥かに凌ぐものが展示されています。台北101は 今 世界で最も高い (500m) ビルです。80階には 500トンものバランスウエイトがぶら下がっており、世界最速の東芝製エ

レベーターで40秒で登れます。新幹線は 半年遅れ、2006年4月の開業となりそうですが、台北から高雄まで90分で行けます。タロコ渓谷は 全山大理石という地形に生まれた、大峡谷で一見に値します。

2 . 台湾と私

たまたま台湾松下電器にて6年間 仕事をいたしました。曾祖父(1852~1921)の古いアルバムから、台湾塩務局で20年、祖父は台湾大学病院と台湾製糖橋仔頭製糖所医務室にて10年、父は台湾で生まれ学齢まで6年間社宅で過ごしました。製糖工場、社宅が まだ 保存され、公園となっています。4世代にわたって、台湾とは 縁の深い関係となりました。

祖母は台湾第一高等女学校を卒業していますが、その校舎も台北第一女子高級中学として残っており、校庭には「強く、正しく、淑やかに」の石碑も残っています。その筋向いには 台湾総統府があり、日本時代の多くの建物が 今も大切に使われています。不毛地帯を穀倉地帯にした 烏山頭ダムには 八田一の銅像が立っています。

3 . 台湾と中国

台湾と中国とは 今や経済的にはほとんど一体化している状況になってきています。台湾と中国は 北京語がそれぞれ標準語となっており コミュニケーションには全く問題がない状況であるのと、文化、習慣的なものは 共通性が高いものを感じます。変化の著しい中国で、会議をやってもなかなか決まらない日系企業に対し、老板(社長)が トップダウンで敏速に対応していくスタイルの台湾系企業が うまくいっている所以でありましょう。

台湾が香港、マカオと同じような形になる可能性が高いとは思いますが、台湾人の面子にかけて、まだ相当時間を要すると思います。中国の人件費が台湾の1/10である現状から、1/2くらいまでバランスがとれてくるのが前提となるでしょう。まだ10年以上は先になると思います。

4 . 台湾から日本への提言

- 1) 台湾から 度々 中国(アモイ、福州、上海、重慶、景德鎮、広州、海南、大連 等)へ出張する機会がありました。多くの中国人と接する機会がありましたが、優秀な好人物が多かったように思います。台湾人ほどの親日的ではありませんが、日本人に対し 特別な感情をもっているとは思えません。靖国問題、教科書問題、サッカー応援問題など 日本人に対するというよりも 政府への不満のあらわれと見るべきでしょう。反日的と感じたことは一度もありませんでした。過剰な報道に気をつけないといけません。時

間をかけて、じっくり いろいろな形で人材交流をつづけて相互理解を深めていくことが大切だと思います。

- 2) 歴史認識において、中国側の報道、教育は間違ったところも多く見うけられるところですが、被害を直接受けた側の痛みを感じとるべきでありましょう。ただ中国、韓国 の気持ちに配慮しながら毅然とした対応をしていくことが大切だと思います。
- 3) 日本がこれから さらに発展していくためには、中国といかに良い関係をつくり、生産基地として また 大きな市場として 中国の発展にも協力していくことが大切であると思います。そのベースとなるのが 技術であり、知的財産権をもって勝負していくことでしょう。また大きなベースとして、教育改革であり 技術者一人一人の人間性が最も大切であることはいうまでもありません。
- 4) 日本企業の強みは やはり技術力と 縦、横 それぞれ責任範囲を越えたところまでカバーしながら活動できるという組織力ではないでしょうか？最近 その組織力が 弱まってきていますが、外国系の企業に比べたら まだまだ いけるという感じがしています。

5. おわりに

松下電器への入社当時は 定年まで遠いなと思っていましたが、あっという間に37年余が過ぎ去りました。ささやかながら、機械技術の発展に貢献できたかな？と思う点があるとすれば、カーエアコンに関する特許、知的財産ということになりましょうか？

前述のとおり 今後の日本の将来は、「知的財産に裏付けられた事業の発展」を地道にやっていくことではないでしょうか？

7月からは 日本デルファイに再就職いたしました。デルファイという会社は10年ほど前、GMの部品事業部がスピンオフされた会社であります。歴史的には ラジエーター、スターター、パワーステアリング、エアバッグ、可変コンプレッサー 等 初めて世に出した 技術の会社です。外資系企業の弱みをカバーできるような、画期的な技術力で 日本のカーメーカーにアタックしていければと思っています。

(2) 新緑とシルバーの美

楠原 正久 (昭和52年卒)



30年以上にわたり、私の傍にあり容色も体力も、往年の美しさと強靭さを保ち続けている友人がいる。

長さは1メートル余りで両端は新緑を思わせるような明るいグリーンで、身体を中心部は、シルバーに輝いており、内部にはバネが、外部にはロープが付いており伸び縮み自由自在である。両端を押して内部のバネや、引っ張ってロープで身体に負荷をかける、ブルワーカーという筋力トレーニング機器である。

大学受験の運動不足に加えて、元来の虚弱体質であった19歳の頃、うっとりするような素晴らしい筋肉の男優が宣伝する写真を見て、私にはこれしかないという電撃的な直感を持って出会って以来の30有余年である。

機械科の同級生の身体自慢の日本拳法部の友人達と、当時9千円余りの機器をそれぞれ買って持ち寄り下宿に集まっては、上半身裸で、競い合ってトレーニングをしていた頃が、本当に懐かしい。友人の下宿には、転がったビールビンや汚れた実験用の作業服に混じって、トレーニング用の室内自転車も置いてあり、当時としては泥土に咲いた最先端の花のエアロピクスセンターであった。

さて、郷里に持ち帰ったときは父に、「そんなことをするより田圃(たんぼ)で鍬を振れ」とひどく叱られた。旧約聖書のイザヤ書の、「かくて彼らはその剣を鋤(すき)にうち変えその槍を鎌に変える」に倣(なら)えば、「そのブルワーカーを鍬に変えよ」と言わんばかりであった。

確かに、鍬で地面を掘るという作業は、実用を兼ねた上に、理屈ぬきの筋トレにはなるのだが青年の微妙な憧れは満たしきれない。

後年、仕事の都合で島嶼(しょ)部へ単身赴任したおりは、週明けにフェリーで往復した。

1メートル余りの金属棒は時節柄、不審物とも見られるような気がして少々気後れもしながらも赴任期間中堂々と持参した。

さて、池谷祐二氏の「深化しすぎた脳」によると、脳が身体を造るのではなく、身体が脳を造るのだという興味深い記述がある。

ブルワーカーで筋力トレーニングをして身体を造ることは、脳を造ることであるとも言えようか。脳には身体のそれぞれに対応した活動領域があることが、最新の脳科学の成果であり、不思議な説得力とロマンがある。

肉体と精神の関係は、

エアロ漕ぐ筋力だけになってゆきペダルの

円弧は銀河を廻る

という歌を、佐々木幸綱先生に朝日歌壇で初めて選歌していただいた当時から、また、千日回峰行に代表される、仏道修行と肉体という観点からも、私の興味の一分野であり続けている。

いまだに、学生時代のトレーニング機器を使えるだけの健康状態であることにも感謝しているこの頃でもある。また、お蔭様で就職当初のズボンが、いまだに

穿（は）けるし時々は、職場の若人にも混じって市民マラソン大会にも出場している。

しかし、いつまでこのような馬鹿馬鹿しいとも、非生産的とも解釈も出来ることを続けられるのか。釈迦もおっしゃったように、人間の生老病死は不可避であることを思うとき無常感が沸々と湧いて来るのも事実である。

ところで、家族にこの間、「あんたは、持ち物の仕舞が悪く物をたくさん無くして来たが、これだけは本当に奇跡的やなあ。使った後も畳の上に置かず絨毯の上に大事に置いとるしな」としみじみ言われた。

30年以上も共に在るのは、まさに奇跡だが、私の肉体と精神が在る限り彼も不滅である。

（原稿校正時に追加）

不覚にも約1週間前からぎっくり腰で少々不自由な生活をしています。この原稿を出させていただいた後だけに少々残念です。

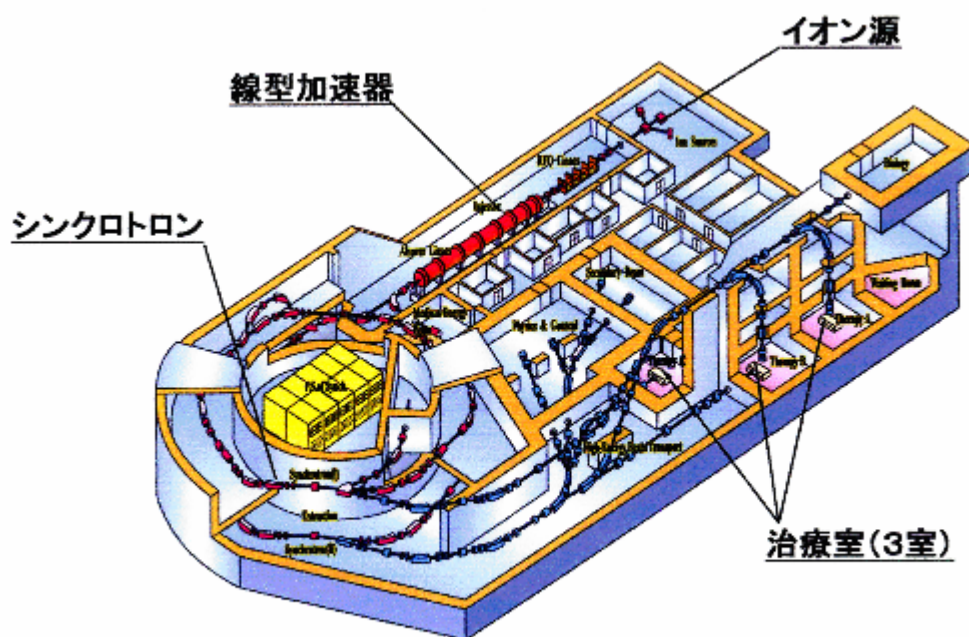
同窓諸氏のご自愛を祈っております。

(3) 出向先での巡り会い

(出向先) 独立行政法人 放射線医学総合研究所 藤田 敬 (昭和 5 8 年)
((出向元) 三菱電機 (株) 電力システム製作所)

受験勉強もそっちのけで、正月の国立競技場を目指して秋の県予選までサッカーをやっていた私は、共通一次試験元年の受験生となり、結局浪人を経験しました。その名のとおり、あまり明るい話題のない浪人時代でしたが、翌年本学に合格し、同時に下宿生活が始まりました。その後、修士課程まで本学で6年間お世話になり、名古屋は私の第二の故郷となりました。就職は三菱電機、配属先は神戸製作所、いわゆるUターン組です。会社では、重厚長大の最たる電機製造部で、従来からの発電機の実績を生かしメカトロを取り込んだ自動車関係の試験装置(エンジンやトランスミッションの単体試験装置及び実車試験を行うシャーシダイナモ等)の工作部門における技術スタッフを担当することになりました。所属の製造部では、超電導応用機器、加速器関連機器の製作も行っており、加速器については、最近その効果が認められてきている粒子線がん治療装置用の医療用加速器も製作機種の一つです。

会社生活も18年目の半ばとなった平成15年8月に出向の話があり、その年の11月に千葉市にある独立行政法人 放射線医学総合研究所(以下、放医研と略す)に出向しました。ここには、世界初の医療用重粒子線がん治療装置 HIMAC (Heavy Ion Medical Accelerator in Chiba) があり、切らずに治す高度ながん治療が行われています。この装置では、イオン源にて炭酸ガスから発生させた炭素イオンを、線型加速器で予備加速(光速の約10%)し、シンクロトロンにて光速の80%程度まで加速して、最終的に治療室にて患部に照射します。平成6年から始まった臨床試験の成果が実を結び、私の出向と時を同じくして厚生労働省より高度先進医療に承認されており、本年3月末現在で既に治療を受けられた方は2,200名近くになっています。



放射線医学総合研究所 重粒子線がん治療装置[HIMAC]

この重粒子線がん治療の特徴は、以下に示す通りです。

- 1) 線量の集中性に優れており、周辺の正常組織への影響が少なく、副作用がほとんどない。
- 2) 高い生物効果をもち、治療効果が大きい。(骨肉腫等の難治がんも治療できる。)
- 3) 手術のような切除及び縫合もないため、痛みがほとんどなく患者の負担が軽いことから QOL[Quality of Life: 生活の質]の高い治療法である。

この重粒子線がん治療装置[HIMAC]には、三菱電機の我が製造部で製作した電磁石が据付られており、シンクロトロンで加速したビームを治療室に輸送する高エネルギービーム輸送系を構成しています。こちらで装置を見学した際に、現場から出荷される当時の電磁石の情景が思い浮かんで来ました。という訳で、これが出向先での巡り会いの一つです。

もう一つの巡り会いは、出向先の放医研で本学の卒業生二名と出会ったことです。二名とも私と同じ昭和 35 年生まれでした。最初に出会ったのは、私と同期入学で原子核工学科であった「土居雅広さん」です。教養課程で学科関係なく講義を受講していたこと、私の大学仲間に原子核工学科のメンバーが居たこと等で、土居さんの顔には見覚えがありました。ということで、大学以来の奇遇な再会？が実現した訳です。次に出会ったのは、出向して約半年後に年度が替わり、人事異動で来られた「原田良信さん」です。現役で農学部に入學されていた原田さんは、土居さんと私よりは大学では 1 年先輩で、最終は本学で博士課程まで進まれました。やはり学部が違うので面識はありませんでしたが、放医研の屋台骨を支えるこの二人の主任研究員との出会いは、神戸からはるばる千葉へ出向し職務も急転回することになった私にとって、非常に心強く感じられ毎日の励みになりました。少し大袈裟ですが、運命的なものも感じました。

所属の三菱電機も出向先の放医研も将来に向けて大切な時期にあり、二つの顔を持つ複雑な身の上ではありますが、何事にも精一杯取り組む信条で頑張りたいと思います。



左から原田良信さん，小職，土居雅広さん
(放医研本部棟前にて)

5 . 同好会報告

(1)「囲碁の集い」報告

囲碁担当幹事 古澤 裕(昭和32年卒)

2ヶ月毎に開催していますが、平成16年12月から平成17年8月までの開催結果は次の通りです。

開催日	参加者数	優勝者	成績	備考
H.16.12.4	6	鷲田2段	4勝0敗	
H.17.2.5	6	鷲田2段	4勝0敗	3段へ昇段
H.17.4.2	6	松田3段	3勝1敗	
H.17.6.4	3	該当者なし		
H.17.8.6	7	青山5段	3勝1敗	

常時参加者は 川口、松田、岩田、青山、鷲田、古澤の各氏です。尚8月度より荻原氏が復活参加されるようになりました。

会場は岩田氏の計らいで中央電気倶楽部で開催しています。(利用料¥500/人)
特に規約はありませんのでご希望の方は自由に参加下さい。
対局模様(H.17.8.6)



(2)ゴルフ同好会の報告

ゴルフ担当幹事 野崎 利雄(昭和29年卒)

H16年10月15日(金)、枚方国際ゴルフ倶楽部で開催。

参加者は、西川さん(S22)、白木さん(S23)、田中さん(S28)、野崎さん(S29)、古澤さん(S32)、山田さん(S33)、和田さん(S43)の7名で、優勝は和田さんでした。

今後も奮ってご参加下さい。



5 . 平成 1 6 年度東山会関西支部総会報告

幹事 和田 滋憲 (昭和 4 3 年卒)

第 4 2 回となる関西支部総会は、平成 1 6 年 1 1 月 6 日 (土) [15 時 ~ 19 時 10 分] 中央電気倶楽部で開催されました。

参加者は会員 22 名のほか名大からご来賓として大学院工学研究科の社本英二教授をお迎えし、次の通り行われました。

講演会 15 時 ~ 17 時 10 分 (司会 : 荻原幹事 S 43 卒)

総会 17 時 10 分 ~ 17 時 30 分 (同 : 青山副支部長 S 32 卒)

懇親会 17 時 40 分 ~ 19 時 10 分 (同 : 荻原幹事 S 43 卒)

以下その各概要を記載します。

1 . 講演会

(1) 講演 1 「大学の近況と東山会の現状」

名古屋大学大学院工学研究科 教授 社本英二氏 (S59 年卒 東山会庶務理事)

講演概要は当支部報の 2 . 大学の近況について に社本教授からご寄稿いただいたものを掲載いたしましたので省略します。

(2) 講演 2 「イラク戦争とブッシュ」

青山 信英氏 (S 32 年卒 東山会関西支部副支部長)

- ・ 一年半前の勝利宣言にも拘らず戦闘状態が未だに収まらないイラク問題で、覇者ブッシュ米大統領の批評を主として古代中国の歴史故事を引用し講演された。

2 . 支部総会

(1) 支部長挨拶

清水支部長 (S31 年卒)

- ・ 来賓の社本教授と本日の総会出席者への謝辞
- ・ 総会は 42 回を迎えたが東山会本部と同じ経費削減問題が起こっている。会報、連絡等は東山会 H P を利用し費用削減を図っていく。
- ・ 全学同窓会関西支部は各部局をベースに立ち上げしているが
- ・ 東山会関西支部は協力していく必要があり設立総会参加をお願いしたい。
- ・ 総会の開催に対し支部幹事の努力への謝辞

(2) 東山会本部代表挨拶

社本教授 (S59 年卒)

- ・ 会長所要のため欠席した。
- ・ 最近は産学連携を推進方向である . . . 全学同窓会もその方向
関西支部は本来の同窓会の趣旨に沿った活動と思うので盛り上げてほしい。

- (3) 会計報告 山田会計幹事(S33年卒)
- ・会計報告は別紙
 - ・年会費は昨年は75名、今年は72名とほぼ維持できた。
 - ・運営費用は昨年215,000円、今年は150,000円と節減努力の効果が出了た。
- (4) 会計監査報告 野崎監査幹事(S29年卒)
- ・資料を監査した結果、適正な会計報告と認める。 参加全員承認
- (5) 一般報告 深谷副支部長
- ・支部会報は本部HPにPDFファイルで掲載している。
次回からパソコン所有者はHPで閲覧してほしい。
パソコン非所有者には郵送する。
 - ・住所変更は連絡してほしい。
- (6) 写真撮影 参加者全員

3. 懇親会

- (1) 乾杯 若山氏(S41年卒)
- (2) 同好会報告
- ・囲碁同好会(古澤幹事)、ゴルフ同好会(野崎幹事)
- (3) 懇親会、学生歌斉唱
(スピーチメモ)
- ・片山氏(S41年卒)
住金からエアーウオーター転職/心齋橋に来られたら寄ってほしい/
この会には今後参加したい
 - ・多田氏(S41年卒)
学生時代は高浜先生の講座/神鋼に就職し入社時は工藤先輩がおられた/
この会に若手の参加の必要性を感じるので後輩に声をかける
 - ・工藤氏(S17年卒)
先月満84歳になった、自分では歳をとったとは思わない、どこまでも
いける気がする/心疾患を持っているが手術で長らえるとのこと/
ガンは気がついた時は遅いので慎重に
 - ・川口氏(S20年卒)
囲碁同好会に出ているが楽しく負けることをモットーとしている/
今年の支部報に寄稿した内容の一部紹介・・・
戦争に行った人は殆ど亡くなった、82歳になった今運が良かったと思
う、100歳とは言わないがあと8年はがんばりたい/
中学の同窓会は毎月第2土曜に行っている、アルコールなし、案内な
し、会費は2000円
 - ・白木氏(S23年卒)
昨年大山へ行き久しぶりに油絵を書くことができうれしかった/80
歳以上になるとインターネットには抵抗がある、会報は紙で欲しい

- ・白井氏(S39年卒)
愛知万博でいくつかロボットが出る/(来年)6月ロボット週間に60チーム出場、私は審査するので来て欲しい
- ・清水氏(S31年卒)
今年シドニーに行った・・・オペラハウスには感激した、ゴールドコーストは人間に開発されておらず、朝歩いた雰囲気・感触など総合的にすごい、一度行かれたら

(4)閉会の辞 青山副支部長

- ・当総会に参加すると名大を出た一つの証という気持ちになります。
(最後に全員で一本締め)

7. 平成16年度東山会関西支部会計報告

期間：平成15年11月15日より平成16年11月5日まで

収 入	金額(円)	支 出	金額(円)
15年11月15日の総会会費 (7000円×22人)	154,000	15年11月15日の総会費用 電気クラブ	154,446
本部祝金	50,000	写真代	6,363
年会費(2000円×72人)	144,000	通信費	13,935
預金利息	19	総会案内制作費	71,993
白木前支部長よりご寄付	50,000	総会案内発送費	38,927
		会議費	10,048
		コピー,事務用品	2,924
		旅費他	6,000
当年度の収入合計	398,019	当年度の支出合計	304,636
前年度からの繰越金	382,808	次年度への繰越金	476,191
合 計	780,827	合 計	780,827

以上のとおりご報告いたします

会計幹事

山田 晃



以上の報告は適正なものとお認めます

会計監査

野崎利雄



7 . 編集後記

昨年、名大全学同窓会監視支部が設立されました。既存の各学部や学科のOB会の連系が課題かと思えます。(1 . 巻頭ご挨拶)

今年は戦後 60 年の節目の年ですが、社会はいろいろな意味で大きな転換時期であることは間違いないようです。名古屋大学は昨年 4 月に独立法人化して新たな組織でスタートし、大きな変革を遂げようとしています。大学の近況を社本教授にまとめていただきました。(2 . 大学の近況について)

今回の「会員訪問」では異色の会員にアプローチしました。楠原さんの過ごされた人生を垣間見ると人生の満足とは何かを考えさせられます。

今年、第 2 の職に就かれお忙しい市川さんからご寄稿いただきました。短文の中に台湾や中国の人々の日本観など一読に値する寄稿です。(4 . (1)台湾について)

「会員訪問」先の楠原さんから寄稿していただきました。3 . 会員訪問 と併せてお読み」いただくと含蓄が増すと思えます。(4 .(2)新緑とシルバーの美) 就職すると様々な人々との出会いがありますが、藤田さん、大学同窓のお二人との邂逅を大切にしてください。(4 . (3)出向先での巡り合い)

(追記)

当「東山会関西支部便り」はすでにインターネット上、名大東山会の「関西支部」にて過去分も含め掲載しています。会員の皆さんには基本的にはインターネットでの閲覧、ダウンロード印刷をお願いします。前年の会費を支払っておられる方で本誌ご希望の方には次年度発行分をお送りいたします。総会の出欠葉書にその旨記載してください。

(平成 17 年 9 月 1 日 W記)